

防犯設計ハンドブック

〈戸建住宅編〉

目次

第1章 住宅犯罪を考える 〈P3 - 8〉

戸建住宅に対する犯罪とは	p4～5
侵入盗の発生状況と手口	p6～7
侵入盗に狙われやすい住環境	p8



第2章 立地環境別防犯対策のポイント 〈P9 - 25〉

侵入盗被害想定を読み方	p10
住宅の立地環境別被害想定	p11～25

第3章 防犯環境プランニング 〈P27 - 66〉

防犯環境プランニングの進め方	p28
防犯対策の基本的な考え方	p29
防犯環境プランニングの考え方	p30
防犯環境プランニングのポイント	p31
周辺環境	p32～34
境界対策	p36～41
敷地対策	p42～49
建物対策	p50～63
リフォームの防犯対策	p64～65
防犯に対する心がけ	p66～67



C P製品の紹介 〈P68 - 73〉

防犯に役立つ植栽一覧 〈P74 - 75〉

第1章 住宅犯罪を考える



戸建住宅に対する犯罪とは

多くの場合、侵入盗が住宅犯罪として取りあげられていますが、それ以外にも、住宅の敷地内では放火、乗り物盗、性犯罪など、住む人々を脅かす犯罪が数多く発生していることを十分に認識しておく必要があります。

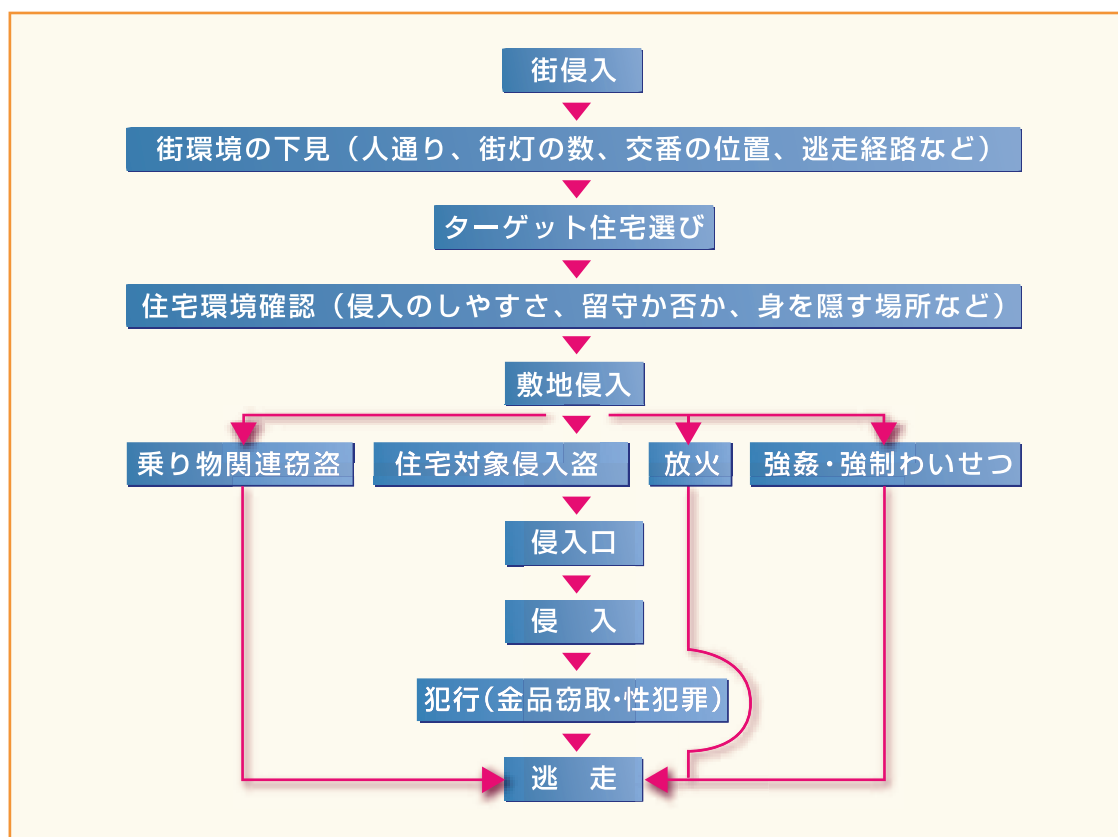
戸建住宅における犯罪種類と場所

種 類	住宅対象侵入窃盗			放 火	乗り物関連窃盗			強姦・強制わいせつ
	空き巣	忍込み	居空き		乗り物盗	車上狙い	部品盗	
	居住者の、不在時に建物へ侵入し、金品を窃取	夜、居住者が寝静まった建物に侵入し、金品を窃取	居住者が、昼寝や食事などをしている際に建物に侵入して、金品を窃取	故意に火事を起こそうとして建物や敷地内の物に火をつける行為	自動車や、オートバイ、自転車等を盗む行為	自動車の積み荷等を盗む行為	自動車に取り付けられている部品を盗む行為（カーナビ、カーステレオ等）	暴行または脅迫を用いて、性的被害を与える行為
犯行場所	住宅内	●	●	●				●
	敷地内				●	●	●	●

生活者は、防犯という問題に対して非常に意識が低いのが現状です。近所で侵入事件が発生した、自宅が空き巣に入られたという経験を通じると、初めて防犯に対する意識が高まります。新築、既築を問わず、生活者の防犯に対する意識を高めるには、日頃から豊かな生活空間を提供している住宅設計者が、「防犯」というテーマを盛り込んだ提案活動のキーパーソンとなる必要があるのです。

安全な暮らしに対する防犯対策を考える多くの人々は、いまだに建物自体への対策強化が第一と捉えています。確かに、建物自体への対策を施すことによって、建物侵入を防ぐことは可能となります。しかし、犯罪者が敷地に侵入し、逃走するまでを冷静にイメージしてみてください。ターゲットに何故なったのか、いつ入ったのか、どうやって身を隠したのか、どのようにして逃げたのかなどを踏まえたさまざまな対策を同時に考える必要があります。

以下に犯罪が行なわれるフローを図示しています。



これらの犯罪は、被害者に対して、経済的、物理的に被害を与えるだけでなく、その建物、敷地内で暮らす家族に心理的、精神的ダメージを与えることになります。これは、たとえ未遂行為であっても同じことです。そのため、住宅設計者、エクステリアプランナーなど住空間設計を行なうプロフェッショナルは、今後防犯環境を考慮した上での、安心できる空間設計を提供する必要があります。